

## 平成 20 年度研究功労賞推薦書

受賞対象者 佐藤 光源 先生

佐藤光源先生は、1962年に鳥取大学医学部を卒業され、岡山大学医学部附属病の院で1年間の医学実地修練の後、岡山大学大学院医学研究科博士課程（精神医学専攻）を修了し、前頭葉機能に関する生理学的研究で医学博士を取得された。1970年には岡山大学医学部神経精神医学講座の助手になられ、1971年からはカナダのブリティッシュ・コロンビア大学の精神科神経研究所に2年間留学されて、ジュン A ワダ教授のもとでキンドリング現象に着目して、キンドリング研究の基礎を築かれた。1973年に帰国後は、岡山大学医学部神経精神医学講座の講師、助教授を歴任され、てんかんの基礎研究に関する多数の論文や著書を発表される一方で、多くの臨床医や研究者の育成指導にも努められた。1986年に東北大学医学部精神医学講座の教授に就任されてからは、てんかん学のみならずわが国の精神医学会全体のリーダーとして活躍された。2001年に東北大学を停年退官後は、東北福祉大学大学院精神医学教授および東北大学名誉教授となられ、現在も幅広い学術活動と社会活動を展開されている。

佐藤先生の学術的業績の第一は、キンドリング現象を実験てんかんモデルとして確立し（*Neurology* 24:565-575,1974; *Epilepsia* 15:465-478,1974）、わが国に初めて導入したことである（*脳と神経* 27:257-273,1975）。キンドリングは脳破壊を伴わない機能的モデルであり、先生の発見はキンドリングが優れたてんかんモデルとして国際的に認識される契機となる画期的なものであった。その後、佐藤先生はキンドリングを利用して、てんかん発作の反復が経シナプス性の可塑的变化を脳全体に引き起こすことや、辺縁系発作の二次性全般化や二次てんかん原性の神経機構、抑制性ドパミン系の増強によるてんかん精神病の発現機序など、てんかん学における臨床的課題の基礎メカニズムを次々に解明し、てんかんの脳科学研究の進歩に大きな足跡を残された。これらの業績の一部は、「燃え上がり現象ーてんかんと精神病への新たなアプローチ」（創造出版、1981）、「てんかんの神経機構ーキンドリングを用いた研究」（世界保健通信社、1993）などの単行本や、”Kindling: basic mechanisms and clinical validity”（*Electroenceph Clin Neurophysiol* 76:459-472,1990）、「精神医学の潮流、キンドリングによる側頭葉てんかんの病態研究」（*精神神経誌* 108:111-116,2006）などの総説に纏められている。

次に、佐藤先生の学会活動としては、日本てんかん学会において1989年から16年間理事を務められ、神経科学セッションのオーガナイザーとしててんかんの基礎研究を推進され、長期計画委員長として学会運営に携わってこられた。1999年には仙台で第33回日本てんかん学会を開催された。また1994年から日本臨床神経生理学会（旧脳波筋電図学会）の理事をされ、1994年には第24回日本脳波筋電図学術大会の会長を務められた。先生のキン

ドリリングに関する業績は国際的にも高い評価を受け、多くの国際学会で招聘講演を行われてきたが、1975年から5年に1回カナダで開催されている **International Kindling Symposium** では、主要なメンバーのひとりとして第6回まですべてで招待講演をされた。

最後に、佐藤先生は日本精神神経学会をはじめ、日本生物学的精神医学会、日本神経精神薬理学会の理事長を歴任され、わが国の精神医学研究とくに生物学的研究の発展に多大な貢献をされてきた。また同時に、アンチステグマ研究会世話人代表として精神障害の社会参加を阻む偏見是正にも熱心に取り組み、2002年に実現した統合失調症（当時は精神分裂病）の呼称変更の際には主導的役割を果たされたことが特筆される。現在先生は、日本てんかん学会、日本臨床神経生理学会、世界精神医学会などの名誉会員をされている。

財団法人仁和会笠岡病院院長  
(前香川大学医学部精神神経医学講座助教授)

森本 清